



南小だより

埼玉県学力・学習状況調査について

昨年6月に実施しました埼玉県学力・学習状況調査の結果、分析、今後の手立て等についてご報告いたします。本調査の特徴としては、実施対象学年が小学4年生から中学3年生までとなっていて、「学習内容がしっかり身に付いているか」に加えて「個々の学力がどれだけ伸びているか」も確認できるものとなっています。今後も本校児童の学力向上への取組についてご理解とご協力をお願いいたします。

令和2年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果

各教科の平均正答率 (%)

学年	国語			算数		
	埼玉県	狭山市	本校	埼玉県	狭山市	本校
4年	64.3	63.2	60.7	64.2	61.3	56.7
5年	62.1	61.4	61.6	61.7	60.2	57.4
6年	58.8	57.3	58.5	59.0	56.5	56.4

実施日 令和2年6月17日
 実施学年 第4/5/6学年
 実施教科 国語・算数

学力のレベルと伸び (国語)

学年		30年度	元年度	2年度	伸び
4年	本校	—	—	6-C	—
	狭山市	—	—	6-C	—
	埼玉県	—	—	6-B	—
5年	本校	—	5-B	6-A	4
	狭山市	—	5-A	6-A	3
	埼玉県	—	5-A	6-A	3
6年	本校	6-B	6-C	7-B	4
	狭山市	6-C	6-C	7-B	4
	埼玉県	6-C	6-B	7-B	3

学力のレベルと伸び (算数)

学年		30年度	元年度	2年度	伸び
4年	本校	—	—	4-A	—
	狭山市	—	—	5-C	—
	埼玉県	—	—	5-B	—
5年	本校	—	5-C	5-B	1
	狭山市	—	5-A	5-A	0
	埼玉県	—	5-B	6-C	2
6年	本校	5-B	6-B	6-B	0
	狭山市	5-B	6-B	6-B	0
	埼玉県	5-B	6-B	6-A	1

◆学力レベルについて

小学校4年生から中学校3年生までを12の段階に学力レベルを設定し、さらに各レベルを上からABCに分けて表しています。児童一人一人や学校の学力を36段階で見ることになります。

◆結果の概要について

正答率においては、県との比較では各学年で国語・算数両方とも県平均を下回る結果でした。ただし、令和元年度と比較すると県平均との差を大きく縮める学年もあり、全体として学力の向上傾向がみられたと考えられます。

また、市平均との比較では5・6年では国語で市平均を上回り、算数では、僅かな差で下回りましたが、令和元年度と比較すると市平均との差を縮めています。(※詳細は裏面参照)

前年度からの伸びについては、国語ではどの学年も伸びが見られました。算数では、5年の学力レベルは市や県を下回っていますが、学力の伸びはみられました。

その他にも「規律ある態度」の達成状況においては、どの学年とも「授業開始時刻を守ること」「集団の場での態度」がよくできていて、「あいさつや返事」「学習準備」に課題があることがわかりました。

今後、ご家庭と今まで以上に連携して、学習の充実や生活の改善が図れればと考えています。

R2 年度埼玉県学力・学習状況調査（前年度との比較）

学年	教科	本校	本校	市 (R1)	市 (R2)	市差 (R1)	市差 (R2)	県 (R1)	県 (R2)	県差 (R1)	県差 (R2)
		平均正答率 (R1)	平均正答率 (R2)								
現4年 (黄色帽子)	国語		60.7		63.2		-2.5		64.3		-3.6
	算数		56.7		61.3		-4.6		64.2		-7.5
現5年 (黄緑帽子)	国語	50.5	61.6	55.8	61.4	-5.3	0.2	56.1	62.1	-5.6	-0.5
	算数	64.5	57.4	71.1	60.2	-6.6	-2.8	70.2	61.7	-5.7	-4.3
現6年 (オレンジ帽子)	国語	50.9	58.5	50.3	57.3	0.6	1.2	52.3	58.8	-1.4	-0.3
	算数	64.6	56.4	66.5	56.5	-1.9	-0.1	68.2	59.0	-3.6	-2.6

考察

- ・どの学年も県との差が縮まったことから、学力の伸びがみられたといえます。
- ・観点別に見ると、国語では「話すこと・聞くこと」、算数では「量と測定」に課題がみられます。学年別では4年の学力の底上げが必要です。特に算数は、ほとんどの観点において県平均と差が大きくひらいています。しかし、6年の国語では、前回より学力の伸びがみられ、様々な結果資料の分析を進め、教職員と指導法などの共有を図っていきたいと思います。
- ・質問紙調査をみると、わからないところを「見直す」「聞く」などに課題があります。また、勉強の計画を立てたり、勉強をする時に必要なものを準備したりすることにも課題があります。家庭学習を自分で進めることが難しい児童が多いのも、このことが理由の1つと考えられます。

対策

家庭学習の質を上げてみよう！

質問紙調査から「学習の計画が立てられない」「計画に沿って実行できない」「正しくできているか確かめられない」と、どの学年も学習のやり方があまりわかっていないことがわかります。その結果、自主学習では計算や漢字ドリルをやるにとどまり、学びの連続性があまり感じられません。そこで、『復習』に取り組んでみてください。「復習」とは、今日の授業で学習したことをもう一度、自主学習ノートにまとめなおして見ることです。そのうえで関連するドリルを数問解くだけでも効果は表れてくると思います。試してみてください。続けることで、自分に合った勉強の仕方もみえてくると思います。